



シラバス参照

タイトル「2014年度 教養科目シラバス」、フォルダ「2014年度 教養科目シラバス-2014年度「わかやま」学」
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	熊野古道と世界遺産		
担当教員	坪井 恒彦		
対象学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	水 4	単位区分	
授業形態	講義	単位数	2
準備事項			
備考	全学部・全学年		
科目名 (英語表記)	Kumano Pilgrimage Routes and World Heritage		
授業のねらい・概要・科目の位置付け	<p>和歌山県を中心に「紀伊山地の霊場と参詣道」がユネスコの世界文化遺産に登録されて10年を迎える。登録の際、最も重視された概念は「文化的景観」だった。人々が熊野古道を取り巻く自然を敬いそこに霊性を感じて何百年にもわたって創り出した「文化的景観」には、いま求められている「持続可能な観光」を解き明かす鍵が秘められている。本講座では「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界遺産における位置づけを意識しつつ、その基盤となった紀伊半島の地理的、歴史的な特性を探究する。それらを踏まえ、熊野参詣のルーツやさまざまな画期、そこにみられる特徴、さらに熊野三山や高野山への信仰の実態、「巡礼の文化」、その現代的な意味などを考察していきたい。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「世界遺産の意義」を問い直す 2. 世界遺産としての紀伊山地の位置付けを考える 3. 「紀伊山地の原風景」を考古学から学ぶ 4. 「紀伊山地の霊場」のルーツを調べる 5. 「山林修行の現場」に参詣道の出現を見る 6. 「俗人参詣の初例」の意味を洗い直す 7. 参詣貴族の本音を日記に読み解く 8. 上皇・貴族から民衆までの参詣を探る 9. 女性たちが強くひかれた背景に注目する 10. 参詣の目的と先達・御師の役割を見直す 11. 九十九王子と道中の営みを推察する 12. 弱者・障がい者参詣の支援に着目する 13. 四国、西国につながった苦行滅罪の巡礼を追う 14. 文化人類学から見た「巡礼の文化」を究める 15. 持続可能な観光の将来をイメージする 		
到達目標	世界文化遺産としての「紀伊山地の霊場と参詣道」の特性や本質を通して観光・地域再生の可能性と課題について、各学生が自身の考え方を確立すると同時に、それらを対外的に表現しうる文章力を養成する。		
成績評価方法	期末試験50%、授業中のレポート30%、出席点20%		
教科書	『熊野古道』（小山靖憲著・岩波新書665）ISBN4-00-430665-5		
参考書	『世界遺産年報2014』（公益社団法人日本ユネスコ協会連盟編）（2014年3月刊行予定）		
履修上の注意・メッセージ	無断欠席が3分の1を超えると単位を認定しない。なるべく少人数の構成で、授業中の文章作成指導など演習的な要素も加えたいと考えており、必ず毎回真面目に出席できる自信のある学生諸君の参加を求める。		
授業時間外学習	本授業の授業計画に沿って、準備学習と復習を行ってください。さらに、授業内容に関連する課題に関する調査・考察を含めて、毎回の授業ごとに自主的学習を求めます。		



